

新潟県燕市の取組み —ヒアリング調査結果の概要—

都市自治体とコミュニティの協働による地域運営に関する研究会
(公財)日本都市センター 柳沢盛仁

ヒアリング調査について

○実施日

平成26年11月25日(火)

○調査先

燕市企画財政部地域振興課

○調査者

進邦委員(杏林大学総合政策学部教授)

事務局(日本都市センター)



<燕市役所>



公益財団法人

日本都市センター

新潟県燕市の概要

○人口¹

82,502人

○面積²

110.94km²

○一般会計³

歳入：408億45百万円

歳出：396億95百万円

○都市制度

一般市

○合併の経緯（平成以降）

- ・平成18年 燕市、吉田町、分水町の
1市2町により新設合併



<新潟県における燕市の位置>

出典：燕市ホームページ(燕市について)

(<http://www.city.tsubame.niigata.jp/about/000000001.html>)

1 平成22年国勢調査

2 国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成25年10月1日)

3 平成24年度決算カード

取組みの概要①

○まちづくり協議会

- ・概ね小学校区を単位とした地域づくりを行う組織
- ・平成17年頃より燕地区、吉田地区で設立開始
- ・平成18年より分水地区で設立開始
- ・現在12団体設立済み
- ・平成18年度から22年度まで、地方自治法上の地域審議会が設置されていた
→地域自治区の設置について検討したが、設置をしないという最終答申
- ・合併により地域の実情に応じたサービスの低下への懸念、自治会では対応が難しい地域の広範な課題やニーズに対応するために設立が開始された
- ・構成団体：自治会、PTA、消防団、青年団、商店会など
- ・財源：補助金、自治会の寄付金、公民館の指定管理(5団体)

○自治会

- ・団体数：208(燕地区：81、吉田地区66、分水地区61)
- ・加入率：ほぼ100%
- ・自治会長：非常勤の特別職(燕市自治会長に関する規則 第3条)
- ・燕市自治会協議会(市全域の自治会長を束ねる組織)



公益財団法人

日本都市センター

取組みの概要②

○つばめ若者会議

- ・経緯：市長の「若者の声を聞きたい」という強い思いからはじまった
- ・立ち上げメンバー：公募で75名（市民53名、市職員22名）
- ・市外在住者も参加している
- ・集まったメンバーは、「まちへの危機感」というより「おもしろそう」と感じて集まっているようだ
- ・構成は主婦層が多いことが特徴：会議の際に出張保育室を設けたことが大きい
- ・ワークショップにより、市の課題、資源などを掘り下げる
- ・20年後の燕市はどうあってほしいかというビジョンとアクションプランからなる「つばめの幸福論2013」を作成
- ・行政が方向性を示さず、自由に活動をしてもらうことにしている→行政としても手探りの状況
- ・つばめ若者会議の活動を発信し情報交換ができるようなウェブサイトの構築を検討している



公益財団法人

日本都市センター

取組みの概要③

○地域の担い手育成

- ・つばめ若者会議は、まちづくり協議会の担い手育成を目的としているものではないが、地域で活躍できる人材を育てたいという意図はある
- ・つばめ若者会議がまだ立ち上がって2年目なので、地域との関係づくりは進んでいない状況
- ・今後、つばめ若者会議の活動が進み、地域に入っていくことを望んでいる
- ・まちづくり協議会も若者が入りやすい雰囲気をつくるなど工夫をする必要があると考えている
- ・まちづくり協議会には、PTAからも役員が入っているが、PTAの任期が終わってから、他の役員へスライドするという動きがみられない
- ・つばめ若者会議の活動が活発化してくれば、自治会、まちづくり協議会などいろいろな人の力を借りる必要が出てくる
→若者会議がまちづくりの核となって、多様な連携が進んでほしい

